

2016 年 3 月

年間活動報告書

2015 年版

外国為替市場発展のために

東京外国為替市場委員会

(Tokyo Foreign Exchange Market Committee)



2016 年 3 月 2 日撮影

目 次

3 巻頭のことば(岩垂議長)

5 小委員会報告

15 東京外国為替市場委員会委員等名簿(2016年3月2日)

本日は外為市場委員会および外為市場関係者をお招き頂き大変ありがとうございます。
東京外為市場委員会を代表して御礼申し上げます。

昨年ご挨拶させていただいた際には、翌月に東京開催のグローバル為替市場委員会 (Global FXC) を控え、各地の行動規範をグローバルにハーモナイズすべく尽力して参りますというお話をいたしました。その後為替市場を巡る行動規範強化の動きは、5月にBISのフレームワークの下でグローバルシングルコード策定プロジェクトとして始まり、以降急速に動きを早めて、中央銀行代表者をメンバーとするFXWG、民間実務者の集まりであるMPGも正式に立ち上がって、これまで数々の議論を重ねてまいりました。先週には、日本銀行が主催者となってここ東京で全体会合も開催されました。

また、今回のBISプロジェクトでは、従来のGlobal FXCの枠組みである主要金融センターの集まりG8に加えて中国、インド、韓国やブラジル、インド等の新興国のメンバー等も加わり、さらにはセルサイドメンバーに加えてバイサイドからもメンバーを募って議論を深めております。

まさにクロスボーダー、クロスセグメントで同一の価値観と市場慣行、行動規範を共有しようとするものですが、社会の様々なレベルでいろいろな難しい関係がある中においても、今回のプロジェクトは為替市場参加者としての健全で効率的な市場運営の基礎を作るという目的に、メンバーが心を一つにうまく建設的に議論、作業をしてこられていると思います。

2年ほど前に、柔道の山下泰裕さんのお話を聞く機会がありまして、(フォレックスパーティーの席上でも一度お話させて頂いたことがあります、) ちょうど柔道界が暴力問題に揺れていた直後の時期の話ですが、その時に山下さんが仰っていた言葉が、「プロの集まりである柔道界における常識が世間の常識とずれて、内部の浄化作用が働かなくなってしまう。今後は自分の愛する柔道のために内部から連盟の正常化に全身全霊身を尽くす。」というお話をされていました。

必ずしもピッタリ為替市場に通ずる話でもないとは思いますが、プロの集団である為替市場のセルサイドメンバーの中に多少の慢心や不道德な心の緩みがあったことが、一部の不正行為に繋がっていた部分も少なからずあるのではないかと思います。

こういう時こそ、きちんと市場参加者が能動的に自らを省みて、基本的な倫理観に基づいて自分たちの慣習を見直す、また、バイサイドも含めた違ったフィルターを通して世間の常識も確認しながら作業を進めていくことが非常に大事なことだと改めて感じています。

東京為替市場委員会では、これまでのセルサイド中心の議論、活動から更に活動の質を上げていく為に、今年バイサイド小委員会を新たに立ち上げて、行動規範に限らず広範な為替市場を取り巻く諸問題に関してより幅広くご意見を吸い上げながら市場の健全な発展に努めて参りたいと考えております。

ここにいらっしゃる皆様からのご指導、サポートを頂戴しながらしっかりと委員会として活動が続けてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

以 上

運営小委員会

I. 委員会概要

- 運営小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の円滑な運営のために、以下の実務的な機能・役割を担っている。
 1. 委員の選任・退任に関わる事項
 2. 役員の改選に関わる事項
 3. 本委員会において議論・検討すべき事項の確認、意見交換等
 4. その他、本委員会の運営に関する事項

II. 活動報告

- 2015 年は「本委員会において議論・検討すべき事項」として、主に以下の項目について意見交換等を行った。
 1. 各小委員会の活動報告及び情報の共有化について
 2. 各国市場委員会との協力、情報交換について
 - ・東京にて外国為替市場委員会グローバル会合を開催
 3. 各国為替市場の動向について
 - ・FSB 報告書実施状況調査に関する FSB 向け報告
 - ・グローバル外為行動規範作成プロジェクト発足（2 年計画）
 4. バイサイド・セルサイド会合開催について
 - ・バイサイド・セルサイド両市場参加者とのコミュニケーション強化策として、バイサイド・セルサイド会合を開催し、外国為替市場に係る意見交換を実施
 5. 本委員会メンバー選任プロセスの策定と、新プロセスに沿った選任作業の実施
 6. 市場委員会の会計監査について
 - ・平成 27 年会計年度に関する会計監査の実施

III. 今後の課題

- 為替取引に係る規制動向について議論・情報共有し、対応策を検討する。
- グローバル外為行動規範作成に向けた取り組みを継続する。
- 継続的な各国市場委員会との情報交換や委員会内での情報共有化の推進を行う。
- バイサイド小委員会立ち上げを検討する。

以 上

広報小委員会

I. 委員会概要

- 広報小委員会は、東京外国為替市場委員会(以下本委員会)の活動を為替マーケットの参加者のみならず、社会に向けて発信することを目的として活動している。主な情報発信手段として本委員会のホームページに以下のような情報を掲載し、必要に応じ内容を更新している。

1. 邦文および英文の「委員会議事録」および「年間活動報告書」
2. セミナー開催など委員会活動に関する情報発信
3. 「コード・オブ・コンダクト」
4. 本委員会のメンバー、組織等
5. 当委員会作成の公表文書

また、ホームページの運用に関しては、サーバーの見直しやレイアウトの変更など利用者の利便性を重視しつつ、低コストの運用を心がけている。

II. 活動報告

- 2015 年は以下の点を重点的に実施した。

1. 外為市場委のグローバル会合で採択された「グローバルな序文：最善の市場慣行に関する規範と共有されたグローバルな原則」をホームページに掲載した。
2. 2015 年 4 月中および 10 月中の外国為替取引を対象とした第 13 回および第 14 回の「東京外国為替市場における取引高サーベイの結果」の調査結果をホームページに掲載した。
3. 「店頭外国為替証拠金取引に関するカバー取引状況」をホームページに掲載した。

III. 今後の課題

引き続き当委員会の情報発信・収集のニーズを理解し、適切なホームページの運営を行う。また、ユーザーにとって、より利便性や活用価値の高いホームページの運営に取り組む。

以 上

教育小委員会

I. 委員会概要

- 教育小委員会は、セミナー等の実施を通して、東京外国為替市場に関わる人材の育成や新しい知識の普及に努める役割を担っている。

II. 活動報告

- 2015 年は日本フォレックス・クラブとの共催で、以下の二度のフォレックス・セミナーを実施した。

1. 実施時期 2015 年 2 月 16 日 18 : 30－20 : 30

実施場所 野村證券大会議室 アーバンネット大手町ビル 6 階

内容

第一部 「ヘッジファンド、フロー動向から占うドル円、ユーロ」

講師 池田雄之輔 氏

野村證券株式会社 金融市場調査部

マネージング・ディレクター チーフ為替ストラテジスト

第二部 「東京外国為替市場の過去・現在・未来」

講師 清水順子 氏

学習院大学 経済学部教授

2. 実施時期 2015 年 8 月 31 日 18 : 30－20 : 30

実施場所 野村證券大会議室 アーバンネット大手町ビル 6 階

内容

第一部 「なぜ歴史的な大相場が始まったと言えるのか」

講師 武者 陵司 氏

株式会社 武者リサーチ 代表

第二部 「当面の外国為替相場の展望 ～主要通貨を中心に～」

講師 植野 大作氏

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社 チーフ為替ストラテジスト

III. 今後の課題

- 現状の外国為替市場のニーズにあった形でのセミナー開催を続けることにより、人材の育成と市場の活性化を支援していく。
- 為替の業界に固執せず様々な方面からマーケットに精通した講師を選出し為替市場の見解を広める努力をする。

以 上

法律問題小委員会

I. 委員会概要

- 法律問題小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の目的遂行のため、以下の役割を担う。
 1. 外国為替市場その他国際金融市場における取引に関する慣行や行動規範の法律的な諸問題について、議論および意見交換を行う。
 2. 上記 1. について、具体的には、以下の活動を行う。
 - ① 本委員会から調査依頼のあった事項について、小委員会として法的な観点から検討し、見解をとりまとめ、フィードバックを行う。
 - ② 何らかの実務上の問題を想定し、例えば取引の安全性を確保するという観点で、法的な立場から検討し、本委員会に対してベストプラクティス等を提言する。
 - ③ 外国為替市場の取引に関し、本小委員会としての対応が必要となる場合に備えて、研究が必要と考えられるテーマについて、情報収集を行う。

II. 活動報告

- Code of Conduct 小委で作成された外国為替取引ガイドライン（ブルーブック）のドラフトについて法的側面から検討を実施。以下の点について Code of Conduct 小委員会宛てに意見具申を行った。
 1. 具体例に対するディスクレーマーの添付とその文案
 2. 具体例の表現に関する一部修正案
- グローバル外為行動規範暫定版2次ドラフトに対するレビューを実施した。

III. 今後の課題

- グローバル外為行動規範の策定の過程において、最終的に日本語訳を作成することを念頭に、本邦の法的側面からレビューを行い本委員会にフィードバックを行う。
- その他、本委員会から調査依頼のあった事項について調査・検討の実施。

以 上

市場調査小委員会

I. 委員会概要

- 市場調査小委員会の主な活動として、東京外国為替委員会による「東京外国為替市場における外国為替取引高サーベイ（以下、東京市場サーベイ）」を定期的実施し、海外主要市場の市場サーベイとの情報共有を行うとともに、その内容について考察を行い、金融環境や市場の質・量の変化に対する分析を実施している。

II. 活動報告

- 2015 年度は、主に以下の活動を行った。

東京市場サーベイ

- 「東京市場サーベイ」を 4 月分及び 10 月分を実施。4 月分は 7 月 27 日に公表、10 月分を 2016 年 1 月 25 日に発表。
- 海外主要市場の市場サーベイと東京市場サーベイの比較調査を市場調査小委員会で行ったうえで、以下 2 点を変更。
 1. 2016 年 4 月調査から通貨スワップ取引にかかる取引高を公表すること。2015 年 10 月調査では、2016 年 4 月調査開始に先立ち、通貨スワップ取引高の集計に当たっての実務的な問題点の有無を確認したこと。
 2. 2015 年 10 月調査より、従来の定量調査に加え、東京市場の現状や環境変化に伴う影響をよりの確に把握することを目的として東京外国為替市場の機能度に関する定性調査を追加し公表したこと。

III. 今後の課題

- 海外主要市場の市場サーベイと東京市場サーベイの比較・分析調査の継続等を通じ、東京外国為替市場の特徴点や同市場の活性化に向けた取り組みを実施する。
- 2016 年度に実施される「BIS サーベイ」を踏まえ、東京市場サーベイの調査内容の見直しについて必要性の有無を検討する。

以 上

Code of Conduct 小委員会

I. 委員会概要

- Code of Conduct 小委員会は、健全なる外国為替市場の維持・発展を目的とし、「Code of Conduct － 外国為替取引に関わる行動規範」および「外国為替取引ガイドライン」の作成・改訂を行う。
- 東京外国為替市場委員会が遵守すべきと考え、奨励する行動規範及び市場慣行を示す指針を作成する。
- 主にインターバンク取引における取引慣行遵守状況のモニタリングおよび新たにに取り組むべき課題の認識に務める。

II. 活動報告

- 「外国為替ガイドライン」の作成・公表・浸透に向けての活動。
 - ・ 外国為替市場委員会グローバル会合での報告。(3月)
 - ・ WEB ページに掲載。(4月)
 - ・ セルサイド向け会合。(5月)
 - ・ バイサイド会合。(5月：生損保、商社 & Asset Manager、証拠金、6月：事業法人)
- タイ中央銀行にて「外国為替ガイドライン」作成について説明。(10月)
- グローバル外為行動規範作成にむけての準備。

III. 今後の課題

- グローバル外為行動規範作成にむけての準備，および東京外国為替市場委員会としての意見とりまとめ。
- 現在進行中の金融市場における規制に関する議論の推移を鑑みながら Code of Conduct およびガイドラインのアップデートを行う。

以 上

オペレーション小委員会

I. 委員会概要

- オペレーション小委員会は、本邦外国為替市場・資金市場（除く国内円）における決済業務に付随する事項を取り扱い、決済業務が円滑に行われるよう案件の検討を行い、東京外国為替市場委員会への提言を行う。

II. 活動報告

- 2015 年度は特段の検討事項がなく、小委員会開催は見送った。

III. 今後の課題

- 当面本小委員会についての担当すべき重要な問題が無いこと等勘案し、市場委員会の効率的な運営の為、当委員会は今回を持って発展的廃会することとなった。

以 上

BCP 小委員会

I. 委員会概要

- BCP 小委員会は、被災後の東京外国為替市場の機能維持と早期の機能回復を支援し、取引の混乱を市場全体として最小限に抑制するための市場レベルの「業務継続計画」を策定・運営する役割を担う。

II. 活動報告

- 3 市場合同訓練の実施【11 月 18 日（水）】
 - 午前 7 時 30 分の被災想定により、「出勤状況に応じた業務運営」、「バックアップ拠点への切り替えと要員の移動」、「日銀ネットを根幹とするシステム間の相互依存関係の影響調査」に重点をおいた訓練を実施。
 - 事前アンケートの提出により、訓練の実効性の向上に取り組んだ。

III. 今後の課題

- 3 市場合同訓練に関する参加者アンケート結果、および参加者ニーズに基づき、東京外国為替市場の特性を踏まえた、BCP 態勢の改善に向けた検討を進める。
- 具体的には、東京外国為替市場委員会が被災時に出来ることを整理し、BCP 発動のプロセスやフェーズ認定の簡素化、組織態勢の見直し、BCP WEB の活用方法高度化に取り組む。
- 東京外国為替市場参加者に対して、BCP に関連する情報の共有と知識の普及活動を継続的に実施し、参加者の BCP 態勢整備を支援していく。

以 上

E・コマース小委員会

I. 委員会概要

- E・コマース小委員会は、為替取引の電子化が進行する中、主に以下の項目につき議論・考察を行う役割を担う。
 - 1. 為替取引電子化の現状把握
 - ・ インターバンク取引及び顧客取引の電子化の状況
 - ・ FX 取引(外為証拠金取引)動向の把握
 - 2. 取引の電子化が外国為替市場に与える影響
 - ・ 市場流動性、ボラティリティ、潜在リスク
 - ・ 取引環境、行動規範

II. 活動報告

- より複雑化する電子取引の現状把握と、また新規参入のプレイヤーの状況などについて、また現在の証拠金業者の過当なスプレッド競争など、潜在的なリスクや今後の流動性の方向などの理解に努めた。具体的には、年初のスイスフラン急騰の混乱時において、電子取引導入各社の当時の状況、対応をヒアリングし、今後想定されうる問題点などのディスカッションを行った。

III. 今後の課題

- 今後ますます存在感を増してくると予想される HFT やアルゴリズムトレードなどが、相場の急変時に、どのように市場流動性、ボラティリティへ影響してくるか、潜在的なリスクの所在を調査し、把握に努める。
- 外為証拠金取引が東京外国為替市場に与える影響の考察及び、市場の安定的な発展のための対策を検討していく。

以 上

NDF 慣行整備小委員会

I. 委員会概要

- NDF 慣行整備小委員会は、東京市場活性化の観点から現行取引慣行が明確でない対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の標準化について、調査・検討を行い、市場慣行を推奨する事で安定した市場の整備に貢献する役割を担う。

II. 活動報告

- 2012 年度には推奨慣行を東京外為市場委員会のホームページに公示した。
- 2013～2014 年度に続き 2015 年度は、取引実態の変化により推奨する慣行に再検討が必要であると考えられる場合や、NDF に関連し検討が必要な問題が生じた場合に小委員会を参集する予定にあったが、今期報告する活動はなかった。

III. 今後の課題

- 当初の目的である「対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の取引慣行の推奨」の作業が終了した後、当委員会の担当すべき問題がないことから、市場委員会の効率的な運営の為、当委員会は今回を持って発展的廃会することとなった。

以 上

東京外国為替市場委員会委員等名簿（2016 年 3 月 2 日）

< 委員 >

委員	役職	所属
岩垂 廣親	議長	三菱東京 UFJ 銀行
大西 知生	副議長	ドイツ証券
竹中 浩一	副議長	みずほ銀行
井上 広隆	書記	日本銀行
石川 昌信	委員	トウキョウフォレックス上田ハーロー
廣田 泰司	委員	JP モルガン・チェース銀行
好川 弘一	委員	スタンダードチャータード銀行
廣田 剛	委員	三菱 UFJ 信託銀行
大柿 敦郎	委員	野村證券
花生 浩介	委員	香港上海銀行
宗川 雄視	委員	トムソン・ロイター・マーケッツ
大澤 孝元	委員	バークレイズ銀行
松本 洋志	委員	三井住友信託銀行
大木 一寛	委員	EBS ディーリングリソースシスジャパン
宮崎 誠	委員	CLS
石橋 優	委員	三井住友銀行
若林 徳広	委員	ステート・ストリート銀行

< 準委員 >

伊藤 祐介	準委員	マネーブローカーズ・アソシエーション
村田 大悟	準委員	三菱東京 UFJ 銀行
鈴木 智美	準委員	ドイツ証券
鉄田 義紀	準委員	みずほ銀行
大河 理沙	準委員	日本銀行
山本 浩司	準委員	三井住友銀行

< オブザーバー >

春木 哲洋	オブザーバー	財務省
-------	--------	-----

(注) 敬称略(順不同)

<小委員会名簿>

常設小委員会	委員		所属
運営小委員会	委員長	廣田 剛	三菱 UFJ 信託銀行
	副委員長	大西 知生	ドイツ証券
		井上 広隆	日本銀行
		大河 理沙	日本銀行
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		伊藤 祐介	マネーブローカーズ・アソシエーション
		竹中 浩一	みずほ銀行
		鉄田 義紀	みずほ銀行
		石橋 優	三井住友銀行
		岩垂 廣親	三菱東京 UFJ 銀行
		村田 大悟	三菱東京 UFJ 銀行
		吉田 優美	三菱 UFJ 信託銀行
広報小委員会	委員長	大木 一寛	EBS ディーリングリソースシスジャパン
	副委員長	井上 広隆	日本銀行
教育小委員会	委員長	大柿 敦郎	野村證券
	副委員長	石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケットツ
法律問題小委員会	委員長	松本 洋志	三井住友信託銀行
	副委員長	廣田 剛	三菱 UFJ 信託銀行
		今泉 康夫	みずほ銀行
		大寄 博明	三井住友銀行
		俣野 仁志	三井住友信託銀行
		今西 晋嗣	三井住友信託銀行
		浅田 伸一	三菱東京 UFJ 銀行
		松原 道彦	三菱 UFJ 信託銀行
		小川 和宏	ドイツ証券
市場調査小委員会	委員長	竹中 浩一	みずほ銀行
	副委員長	岩垂 廣親	三菱東京 UFJ 銀行
		宮崎 誠	CLS
		大西 知生	ドイツ証券
		井上 広隆	日本銀行
		大河 理沙	日本銀行
		鉄田 義紀	みずほ銀行
		石橋 優	三井住友銀行
		赤井 伸彦	三菱東京 UFJ 銀行
		井上 大輔	三菱東京 UFJ 銀行

常設小委員会	委員		所属
Code of Conduct 小委員会	委員長	大西 知生	ドイツ証券
	副委員長	鉄田 義紀	みずほ銀行
		劉 劍豪	ドイツ証券
		井上 広隆	日本銀行
		若林 徳広	ステート・ストリート銀行
		花生 浩介	香港上海銀行
		伊藤 祐介	マネーブローカーズ・アソシエーション
		石橋 優	三井住友銀行
		高木 晴久	三井住友銀行
		松本 洋志	三井住友信託銀行
		市河 伸夫	三菱 UFJ 信託銀行
		赤井 伸彦	三菱東京 UFJ 銀行
		高見 隆一	三菱東京 UFJ 銀行
		井上 大輔	三菱東京 UFJ 銀行
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		大澤 孝元	バークレイズ銀行
オペレーション 小委員会	委員長	花生 浩介	香港上海銀行
	副委員長	松本 洋志	三井住友信託銀行
		大木 一寛	EBS ディーリングリソースズジャパン
		平島 圭志	CLS
		石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケットツ
		菅山 靖史	日本銀行
		高橋 一行	みずほ銀行
		平井 修史	みずほ銀行
		田中 義久	みずほ銀行
		黒住 靖	三井住友銀行
		佐藤 慎介	三井住友銀行
		清家 麻紀	三井住友信託銀行
		松本 亘弘	三菱東京 UFJ 銀行
		村田 大悟	三菱東京 UFJ 銀行
		一口 義仁	三菱 UFJ 信託銀行
		小川 淳一	三菱 UFJ 信託銀行

常設小委員会	委員		所属
BCP 小委員会	委員長	岩垂 廣親	三菱東京 UFJ 銀行
	副委員長	田中 誠一	みずほ銀行
	副委員長	井上 広隆	日本銀行
		平島 圭志	CLS
		小川 和宏	ドイツ証券
		清水 茂	日本銀行
		石坂 真吾	日本銀行
		石橋 優	三井住友銀行
		篠永 健	三井住友銀行
		浅田 伸一	三菱東京 UFJ 銀行
		廣田 剛	三菱 UFJ 信託銀行
		吉崎 司	三菱 UFJ 信託銀行
E・コマース小委員会	委員長	石橋 優	三井住友銀行
	副委員長	蒲谷 淳二	ドイツ証券
		大木 一寛	EBS ディーリングリソースジャパン
		山崎 哲夫	金融先物取引業協会
		井上 広隆	日本銀行
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		大西 知生	ドイツ証券
		井上 吉康	三菱東京 UFJ 銀行
		樋上 陽一	みずほ銀行
		三輪 隆也	三井住友銀行
		大澤 孝元	バークレイズ銀行
		若林 徳広	ステート・ストリート銀行

プロジェクト小委員会	委員		所属
NDF 慣行整備 小委員会	委員長	廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		大木 一寛	EBS ディーリングリソースシスジャパン
		大西 知生	ドイツ証券
		寺田 八大	ドイツ証券
		石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケット
		本間 仁	トムソン・ロイター・マーケット
		加辺 猛	みずほ銀行
		上村 彰宏	三菱東京 UFJ 銀行
		廣田 剛	三菱 UFJ 信託銀行
		入江 慶和	三井住友銀行

(注) 敬称略(順不同)